

Miyoshi City News Release



令和7年10月16日

乗車券「バス&レールどっちも割きっぷ」が 2025年度グッドデザイン賞を受賞

広島県三次市、備北交通株式会社及び西日本旅客鉄道株式会社広島支社が連携して実施している「バス&レールどっちも割きっぷ」が、このたび2025年度グッドデザイン賞(主催:公益財団法人日本デザイン振興会)を受賞しました。

競合関係にあるバス会社と鉄道会社、行政の3者が連携した公共交通の利用促進の取り組みが、「地域の取り組み・活動」の категорияで高く評価され、応募総数5,225件の中から受賞しました。

1 取組の名称

乗車券「バス&レールどっちも割きっぷ」

2 受賞者(敬称略)

三次市長 福岡 誠志

備北交通株式会社 代表取締役社長 河野 文彦

西日本旅客鉄道株式会社広島支社 理事 広島支社長 飯田 稔督

3 取組の概要

公共交通の利用促進を目的に、バス会社と鉄道会社、行政がスクラムを組んで、鉄道と高速バスそれぞれの片道券をセットにした割安の往復切符を発行するもの。



令和3年度の取組開始時には3,665人であった切符利用者数が、令和6年度は、約6倍の19,589人へと増加した。JR 芸備線の三次～下深川間の平均通過人員数も増加傾向が続いており、公共交通の利用促進に大きな効果が得られている。

4 評価コメント

通常は競合関係にある鉄道会社とバス会社が、行政の強力な調整役としての役割のもと協働した、意義深いデザインである。事業開始からわずか3年で利用者が約6倍に増加した驚異的な成果は、単なる経済的価値に留まらず、利用者目線での利便性と楽しさを追求した本質的なデザインが、人々の行動変容を促したのだと思う。

また、使いやすさを考慮した切符の改良や、手元に残る乗車記念としての工夫など、細部にまで行き届いた配慮も高く評価できる。この取り組みは、全国の地方都市が直面する交通網維持の課題に対し、多者連携という新たなアプローチを提示したモデルケースであり、成功事例が他地域にも広がることを強く期待する。「どうせ無理だから」と諦めるのではなく、地域の未来を想うビジョンと、その実現に向けた本気の実行力は、多くの関係者と他地域に希望を与えるものである。

Miyoshi City News Release



5 今後の予定

(1) GOOD DESIGN EXHIBITION 2025 の開催(東京都内)

11月1日(土)～5日(水)に、東京・六本木の東京ミッドタウンで開催される「2025年度グッドデザイン賞の全受賞作を紹介するイベント「GOOD DESIGN EXHIBITION 2025」にて、受賞作が展示されます。

(2) 「Gマーク」の活用

ア どっちも割 PR チラシ

令和7年度追加印刷分から使用開始予定。

イ どっちも割きっぷ

令和7年度追加作成分から使用開始予定。

グッドデザイン賞とは

1957年創設のグッドデザイン商品選定制度を継承する、日本を代表するデザインの評価とプロモーションの活動です。

国内外の多くの企業や団体が参加する世界的なデザイン賞として、暮らしの質の向上を図るとともに、社会の課題やテーマの解決にデザインを活かすことを目的に、毎年実施されています。受賞のシンボルである「Gマーク」は優れたデザインの象徴として広く親しまれています。

<https://www.g-mark.org/>



広島県三次市

経営企画部 秘書広報課 広報プロモーション係 (担当:倉川・安本)

TEL:0824-62-6103 FAX:0824-62-6223

地域共創部 まちづくり交通課 自治交通係 (担当:伊藤)

TEL:0824-62-6233 FAX:0824-62-6235